



いづみ

No.31

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 1



(写真撮影 中 優樹)

「MUSE」

國松 明日香

自作自選

1 作者の言葉

「MUSE」は、篠路拓北土地地区画整理事業の竣工記念として、1990年に制作、設置されました。北海道教育大学を中核とした学園都市「あいの里」として、その拠点となる「あいの里教育大学駅」の駅前に、「豊かな学術文化」が育まれる事を願い、ギリシャ神話に登場する MUSE の神々をイメージし、象徴的に表現しました。台座は設けず、ペーパメントとなるところには御影石を張り、人々が彫刻に直接触れることができるように配慮しました。

(國松 明日香)

タイトル：「MUSE」

制作年：1990 年

素材：コルテン鋼

設置場所：JR「あいの里教育大学駅」前

*第1回日本の鉄道—パブリックアート大賞」優秀賞受賞作

連

載

宮の森の四季

1

本郷新記念札幌彫刻美術館

魅力ある美術館を目指して…

館長 佐藤 信

1981年に開館した彫刻美術館は、年間2万人を超える来館者がありましたが、8年後には1万人を割り、99年には5千人を割ってしまう状況にあり、その後も6、7千人で推移しています。

2009年度は来館者が激減する冬季間の一つの試みとして、1月24日から31日まで、なよろ国際雪像彫刻大会に出場しているタニグチススムさん方の協力をいただき、本館の前庭を利用した雪像彫刻づくりに挑戦してみました。

町内の方々や近隣の小中学生をはじめ、大倉山ジャンプ大会を見にきた市民の方など、予想を上回る反響があり、「さっぽろ雪まつり」とはまた一味違った彫刻美術館発の雪像づくりを、今後継続・発展させていきたいと考えています。

今回の取り組みをヒントに、彫刻美術館ならではの特色ある企画展の開催はもちろん、常設展示の工夫など、大胆な発想で魅力ある美術館づくりを目指し、まずは開館当時の半分の1万人を回復させることを目標にしています。皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

「札幌彫刻美術館友の会」一名前が変わらないわけ

会長 橋本 信夫

私たち「札幌彫刻美術館友の会」は1981年、「財団法人札幌彫刻美術館」の開設と同時に美術館の支援を目的に生まれた市民組織です。美術館は3年前の2007年、札幌芸術の森などを運営する「財団法人札幌市芸術文化財団」に統合され、現在の「本郷新記念札幌彫刻美術館」に生まれ変わりました。

つまり、私たちが支援の対象にしていた「財団法人札幌彫刻美術館」という組織はなくなりました。新たな美術館側からは友の会の事務局を美術館には置かないように要請されました。

こうした事態を受け、一昨年、友の会の名称をどうするか検討の結果、最終的に会の名前は変えず、従来の「札幌彫刻美術館友の会」のままにして現在に至っています。

私の手元に札幌市が出した彫刻美術館設置の理由に触れた一通の文書があります。そこには「財団法人札幌彫刻美術館は札幌市をはじめ道内における彫刻を中心とした美術をさらに振興していきたいとの故人（本郷新）と遺族の思いによって

設立された民間の団体であり、団体と施設の関係が密接不可分な関係にあります」と書かれています。

私たちは単に本郷新記念札幌彫刻美術館の支援団体だけにとどまらず、幅広い観点で会の活動を心がけたいと思っています。

そのため、会報「いずみ」などを通して、道内各地で活躍する彫刻家やその作品情報を広く紹介するほか、彫刻作品の資料収集に努めると同時に、「市民文化は市民の手で」をモットーに野外彫刻清掃などの運動を実践してきました。さらに、彫刻資料をデータベース化し、その情報を公開して活用する「札幌デジタル彫刻美術館」構想の実現などにも取り組んでいます。

私たち友の会は、国際文化都市・札幌にふさわしい市民文化運動の拠点として、本郷新にこだわることなく、彫刻芸術の振興活動を幅広く展開するため、あえて「札幌彫刻美術館友の会」の名前にこだわって行きたいと思います。

現代を生きる本郷新

谷口 雅春（ライター）

われわれの一番知らなければならないことは、時代の名や地名や年号のことではなく、一つの彫刻作品の美しさを通して、時代を感じたり、思想を受け取ったり、ものの移りを考えたりして、その作品の底に折りたたまれている人間の歴史を知ることである。

（『彫刻の美』1942）

本郷新が1942（昭和17）年に出版した「彫刻の美」（富山房）の一節だ。昨年12月、僕は写真家の露口啓二さんと「札幌アートウオーク」（北海道新聞社）という書物を編んだ。美術や建築を道しるべと同時に目的地としながら、札幌の大地と歴史の起伏をまさぐろうとした試みである。構成のひとつの軸としたのは、本郷新だ。

例えば札幌都心に本郷の作品が据えられたのは、この国が高度成長へのテイクオフを遂げた時代だった。大通公園西3丁目。旧拓銀本店の後継ビルの建設が進む目の前には、「泉の像」がある。1943年までここには、永山武四郎の銅像があたりを睥睨していた。1959（昭和34）年。大軍人と入れ替わるように、本郷の手によるレオタード姿の女性たちが登場する。

そして翌60年には、札幌駅前広場に「牧歌」が据えられた。この年は北海道の鉄道開通80周年。これを期に駅前広場にうるおいのある彫刻を、と彫像建設委員会が結成され、本郷に制作が依頼されたのだ。

30代半ばで本郷は、山内壮夫や佐藤忠良らを率いて新制作派協会（現・新制作協会）に彫刻部を創設したが、そのスローガンにはこんな一節があった。

彫刻は個人の応接間を飾るものではない。愛玩物でも装飾物でもなくもっと公共の広場で、社会的空間の中で生きるものこそ本当の彫刻のあり方でなければならない。

本郷が掲げたこうした理想は、1950年代になってようやく叶えられることになる。戦後の民主社会は、自らの新たな成り立ちを刻印するように街角に彫刻を求めたし、そこに作られるべきは、もはや固有名を掲げた顕彰像ではなく、人間の本質を探究しようとする近代彫刻だった。戦前から本郷たちが志向していたことの延長上に新生日本の針路があり、そしてそんな時代は、本郷の彫刻家人生の充実期とも軌を一にしていた。

明治の末に札幌に生まれ、この新興都市の活力を吸収するように育った彫刻家が郷土に残した作品群は、つねに僕たちに大きな時代観を示してくれている。それが未来の札幌へのかけがえのないリソースであることを思うとき、本郷の作品は現代をさらにいきいきと生きることになるのだと思う。

たにぐち・まさはる 1957年、札幌生まれ。著書に「奇跡の音楽祭 札幌・PMFの夏」（北海道新聞社）、編集「駅とアートは求め合うー札幌・JR

タワーの秘密」(幻冬舎ルネッサンス) など。

私の仏像彫刻体験

井上 雅子(会員)

奈良に住むことになって、ふとしたきっかけで、百人以上の弟子を持ち、春日大社から南都仏師の称号と花押を戴いた矢野公祥仏師の元に入門させていただき、まず、足首、にぎり手、開き手、仏頭へと進んで行くのです。

仏頭は地蔵菩薩、釈迦如来、聖観音の順に進むのですが、釈迦如来の螺髪らはつ（つぶつぶのような巻き毛）は刀がそれるとポロリと欠けてしまうし、聖観音の結い上げた髪は表情が難しく、開き手も仏頭もそれぞれに十個以上の練習を経て、やっと一体仏の救世観音を手がけることを許されるのですが、その道のりの遠いこと。

材料は木曽ヒノキで、割りあい彫りやすいので女性はほとんどヒノキを使いますが、男性は材料費が割安なのでクスの尺物を彫る方が多いです。刀も数種類（印刀、平刀、丸刀、三角刀ほか多数）で、まず、最低30本はそろえなければならず、値の張るものばかりで、仏像彫刻と簡単に入門してもとてもお金がかかります。

ヒノキ材で7寸から8寸、蓮台座もろくろをかけてもらおうと3万から5万円と、とても高いのです。

私は10年間、仏像彫刻を習い、救世観音5体、釈迦如来座像、釈迦如来立像、地蔵菩薩立像2体、聖観音立像、阿弥陀如来立

像、大日如来座像、持国天、不動明王など14体の仏像を彫らせていただきました。一年に一度、奈良で教室展、京都で関西圏の仏師と弟子展が開かれますので、私たちも小さな作品を持って京都へ行きますが、その時に日本中の寺々からの依頼の五尺仏、八尺仏を大きな色鮮やかな出来立ての仏像

にお会いすることが出来て幸せでした。お寺で拝む時は敬虔な気持ちになるのに、展覧会場で全身に巻かれたさらしを外され、その場で組み立てられていくのを見ていると、全然敬虔な気持ちにならず美術鑑賞会場にいるような雰囲気、こんなお披露目のような出合いは仏像の世界に居させてもらえてこそその体験だなあと、得をした気分になったものでした。そして、古の建築物としてのお寺に鎮座してこそその仏像であ

り、その美しく、威厳のある表情が歴史を支えているのだなあと思いました。

心の底から仏像彫刻に出合えて運が良かったと感謝しています。仏像もたくさんありすぎるのも困るのですが、大勢の方にもらっていただけて私の仏像も幸せ者だと思っています。

井上さんは1999年から2009年まで奈良に在住。その折りに仏像彫刻を体験しました。その貴重な経験をつづってもらいました。



2010年友の会新年会開催

「芸森誕生秘話」平岩氏が講演

彫刻美術館友の会の2010年新年会が1月30日、札幌・すみれホテルで開かれ、約50人が参加、今年一年の充実した活動を誓い合った。

恒例の講演は平岩博幸札幌市民ギャラリー課長（札幌芸術文化財団嘱託）が「札幌芸術の森誕生秘話」と題して芸術の森造成にかかわった思い出を興味深く語った。



平岩さんは札幌市職員として1984年から5年間、芸術の森建設に携わった。初めての彫刻公園実現だけに苦労も多く、困った時は「いざ鎌倉」を合言葉に神奈川県鎌倉市の当時の神奈川県立近代美術館の匠秀夫館長、酒井忠康学芸課長（現東京・世田谷美術館長、余市町出身）を訪ねたことを披露しながら、「神奈川の人脈が無かったら今の芸森はなかった」と話した。また、作品購入を巡ってノルウエーのオスロへ当時の板垣札幌市長と赴いた時の思



い出、さらに、本郷新、山内壮夫、砂澤ビッキ、佐藤忠良など各作家とのエピソードを懐かしそうに振り返った。

このあと新年会に移り、各テーブルでは和やかな会話が弾んだ。余興には札幌シニアネッ

トワークのダンスチーム男女2組がルンバを披露、会場を華やかな雰囲気でも盛り上げた。さらに、新年会に出席した新会員8人が紹介され、会を閉じた。

山内壮夫作「希望」像

こっそり？補修 札幌市

一昨年、友の会が行った野外彫刻清掃作業で、中央区北1西1、旧札幌市民会館前にある山内壮夫の彫刻、「希望」像（セメント製）の劣化、破損などが分かったことから、昨年、市内の民間企業が作品の恒久対策としてブロンズ化鋳造費の全額寄付を友の会を通じて札幌市に申し出た。しかし、その後、市は東京の業者に依頼、セメント像の表面をコーティングで白く化粧し直していたことが分かった。せっかくの市民の熱い思いが実らず、問題を残した格好となった。



市内には山内のセメント製の古い作品だけで6点もあり、いずれも早急な劣化防止措置が求められている。

今回、市が東京の業者に委託したコーティングの工法、費用などは明らかにされなかった。「希望」以外のセメント作品劣化防止のために会員、市民によるコーティング作業を計画中の友の会にとって、工法と費用の詳細は今後の作業を推進する上できわめて重要である。さらに、東京の業者に丸投げしたことによって地元業者に文化財保全の経験や技術が育たず、市民ボランティアでも可能なわずかな補修、保全作業でさえ停滞してしまうことが何とも残念に思われてならない。（橋本）

意欲に燃えてスタート

解説ボランティア研修

野外彫刻作品の解説を勉強するとともに仲間を増やそうと友の会解説部会が呼びかけていた解説ボランティアの研修が2月からスタートした。

研修には新たに会員になって参加した4人を含め10人ほどが集まった。4日に行われた初研修では作品のガイドには作品本体ばかりでなく付随した知識も必要であることから、ボランティアの経験の深い松原安男会員が野外彫刻が多い大通公園の成り立ちなどを解説した。ついで2回目の25日には実際に参加した2人がそれぞれ自作の解説文を読み上げ、他の会員に感想を求めるなど、意欲に燃えた研修ぶりを見せていた。このあと毎月2回ほどの研修を重ねて力をつけることにしている。



DVD 第6作「札幌軟石を彫る」完成

札幌市ちえりあ視聴覚センターからの委託で友の会が制作していたビデオ「札幌軟石を彫る—彫刻家・渡辺行夫の美の世界」がこのほど出来上がった。

友の会が同センターの募集する教材ビデオ公募に応じて制作を始めてこれが6作目。今回は札幌開拓の歴史的建築物と深く結びついていながら近年、忘れられようとしている札幌軟石をテーマに、建築資材としての札

幌軟石の歴史に光を当てた。同時に、軟石を素材に彫刻作品を手がけている小樽市

銭函の彫刻家、渡辺行夫さんの制作過程をダブらせ、サブタイトルを「彫刻家・渡辺行夫の美の世界」とした。約17分の作品だが、プロローグ、野外彫刻空間、札幌軟石建築、エピローグなどを含めて118シーンで構成している。また、BGMには札幌交響楽団の演奏で、札幌在住の若手作曲家、星義雄さんが作曲した「ラプソデー第3番」を使った本格的なものとなった。



2010年度友の会総会・シンポジウム

札幌市民ホールで4月11日開催

2010年度の札幌彫刻美術館友の会総会とシンポジウムが4月11日、札幌市民ホール(旧札幌市民会館)で開催される。昨年より約一カ月早く行われ、会場も昨年と変わるが、事務局では会員多数の出席を呼びかけている。

総会は午後1時から始まり、2009年度活動報告、決算報告、2010年度活動計画、予算案などを審議する。

また、総会終了後、引き続きシンポジウム「市民文化は市民の手で—市民参加型文化活動の在り方を探る」を開催する。

パネリストには垂石寛史(市生涯学習総合センター事業課)、柴田尚(NPO 法人 S-AIR 代表)、吉岡宏高(NPO 法人 炭鉱の記憶推進事業団理事長)、中村祐子(札幌建築鑑賞会スタッフ)各氏が予定されている。

ギャラリー・展覧会

■第37回美工展

4月21—25日、札幌市民ギャラリー

北海道美術工芸協会主催で、木工作家の羽賀隆友の会会員が出品している。

事務局日誌

▼1月6日＝札幌市文化部長訪問。新年挨拶のため、橋本会長ほか4人▼14日＝第6回定例役員会開催(エルプラザ)。新年会準備、会報印刷の業者委託について▼27日＝会報編集委員会兼臨時役員会(エルプラザ)。会報31号の印刷業者委託に伴う会報のレイアウト変更を協議。臨時役員会では2010年度総会日程を決定▼30日＝友の会新年会開催(札幌すみれホテル)▼2月15日＝定例役員会(エルプラザ)。総会の議案の準備、会報31号編集方針などを協議。

札幌彫刻美術館友の会 会報「いずみ」No.31

2010年4月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集スタッフ

斎藤美年子：011-643-7246

大内 和：011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」31号 目次

自作自選1 MUSE	國松明日香	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季		2
巻頭言「名前が変わらないわけ」	橋本信夫	3
寄稿「現代を生きる本郷新」	谷口雅春	4
寄稿「私の仏像彫刻体験」	井上雅子	5
友の会ニュース		6、7
ギャラリー・展覧会、事務局日誌ほか		8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本 館

■本郷新のコレクション展

会期：4月10日[土] ～5月9日[日]

■北海道立体表現展 '10作家56人の小品展

会期：5月15日[土] ～6月27日[日]

■北海中学のきずな—どんぐり会の仲間たち—

会期：7月3日[土] ～9月5日[日]

■貸し館

9月11日[土] ～9月26日[日]

記念館

■本郷新展

会期：4月17日[土] ～3月27日[日]

本郷新記念札幌彫刻美術館 札幌市中央区宮の森4条12丁目

☎011-642-5709

編集後記

▼会報の印刷を業者委託にして初めての号です。これを機会に編集レイアウトを大幅に変えました。いままでと比べてどうでしょうか。知恵がなくはなはだ心配です▼カラー印刷が可能になりましたが、ページは8ページ限定。さらに試行錯誤で親しみやすい会報をめざしたいと思います。ご意見、アイデアを聞かせてください。(大内)